

氏名	片田 孫 朝日
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>日本の「教育とジェンダー」研究は、保育や学校における隠れたカリキュラムを探求し、ジェンダーの社会化と再生産を議論してきた。しかし、子ども間の権力関係と公共性の問題として「ジェンダー問題」を論じることが少なく、一般に保育や学校の現場で、ジェンダーはいまだに重要な課題として理解されていない。こうした中で、研究員は、特にイギリスやオーストラリアのフェミニズム研究に学び、ジェンダーに敏感な保育の可能性を探求した。</p> <p>その成果として、第一に、過去の学童保育での参与観察と指導員へのインタビューを読み解き、指導員は、子どもを主体に「一人ひとり」の育ちを重視する児童中心主義 <i>child centered pedagogy</i> をとる場合に、男女間のジェンダーの問題を見ることができず、「ジェンダー・ブラインド」を維持する可能性を議論した（学会報告）。</p> <p>第二に、指導員は、男女が遊び集団を分離させ、男子が女子に優位性を示そうとする状況において、男子と女子と一緒に遊び、より公平な関係を作ることに一定の役割を果たしていた。しかし、インタビューを行ったベテランの指導員は、ジェンダー・ブラインドであるために、このような指導員の公共的な役割も明確に自覚していなかった。これらから、従来のように保育者のジェンダー・バイアスを外から批判するよりも前に、子ども間の現実から保育者と共有できる形で「ジェンダー問題」を可視化し、保育者らが現に果たしている役割も前向きに評価しながら、ジェンダーへの自覚を促すような新たな議論の重要性を示唆した（論文）。</p> <p>以上の研究活動と並行して、京都市の学童クラブの指導員が集う研究会に定期的に参加し、指導員が何を日常的な保育の課題として理解しているのかを把握してきた。また、高槻市で、行政とタイアップして保育所や幼稚園にジェンダー・プログラムを提供している NPO の活動に同行し、ジェンダー問題の構築について認識を深めた。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>< 著書 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『子どもの相互行為とジェンダーの社会学的研究』 京都大学文学研究科、博士学位論文、2009 年 12 月 <p>< 論文 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもによる性別の境界形成と保育者の関与によるその乗り越え—ジェンダーに敏感な保育に向けて—」『子ども社会研究』第 16 号、2010 年（掲載予定） <p>< 学会報告 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー・ブラインド—子ども主体の権力論からみる児童中心主義の問題—」 日本教育社会学会第 61 回大会、2009 年 9 月 12 日、早稲田大学 	

